

平成28年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校通信制課程 学校長名：岩崎 博

目指す学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 社会や生徒のニーズに応える学習機会を提供し、地域から信頼され、生徒の夢の実現をサポートする学校 生涯を通して、自ら学ぶ態度や意欲を身につけ、可能性にチャレンジする心豊かな生徒
-------------------	--

※SC：スクールカウンセラー
SSW：スクールソーシャルワーカー
ケース会議：個々の生徒の課題や状況を分析し支援の在り方等について検討する会議
ICT：Information and Communication Technology 電子黒板やノートパソコン、タブレット型端末

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 基礎・基本の確かな定着を図り、学ぶ楽しさを実感させる。
	2 基本的生活習慣を確立させ、社会につながる学習の充実を図る。
	3 開かれた学校づくりを推進する。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方針の公表の方法
本校ホームページに掲載

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					平成28年度 評 価 (3月1日 現在)		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	達成度	次年度への課題と改善方針	
1	通信制課程では、働きながら学ぶ生徒が減少し、不登校経験のある生徒、転・編入生の生徒、中学卒業後すぐまたは一定期間を経た生徒等が入学してきている。入学動機や学習歴、興味・関心、学校観、将来観等もさまざま、多様化が進んでいる。また、基礎学力が十分身につけていない状況がある。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に対応できる教育の創造に取り組む。 わかりやすいスクーリングを目指し、学習内容の精選と充実をめぐる。学ぶ楽しさを実感できるようにする。 生徒とのコミュニケーションを深め、積極的な学習を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の状況を把握し、柔軟できめの細かい指導を行う。 未登録生徒や学習進度の遅い生徒に対して学習を促す。 生徒の学習の進捗状況を把握し、適切な受講指導を行う。 生徒が積極的に学習に取り組めるようにスクーリングやレポートの工夫を行う。 通信制課程独自の学習を効果的に進めるために学習環境の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校からの回復状況 受講登録率 単位修得率 卒業生徒数 (在籍3～4年間で卒業する生徒数) 各教科において新学習指導要領の観点を取り入れられているか。 ICTの活用状況 学習施設・設備の充実状況を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じた丁寧な指導に努めたことで受講登録生徒の割合は昨年より0.2%増の51.5%となった。この数字は全国的にみて高い数字となっている。また受講登録をしていない生徒に学習再開を促す手紙を郵送した結果4名が学習を再開した。 単位修得率：30.9%(-3.6%) 卒業生：63名(8名減) スクーリングの空き時間にタブレット端末を利用し学習を進めることで時間を有効に使える生徒が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ早く学習方法を理解し自分にあった自学自習の方法を身につけさせ学習が効率的に進められるような取組を研究していく。 多様な生徒に対応できるようなりポートやスクーリング形態の研究を教科を越えて進める。 タブレット端末を有効に利用し、視聴覚作成や調べ学習ができるように指導を工夫する。 29年度から導入する通定併修の充実に向けて研究を進める。
2	年齢層も幅広く、さまざまな課題を抱える生徒が在籍している。集団への参加や自己表現が不得意な生徒が増加傾向にある。全般的に、進路や学校生活、健康等に対する意識の希薄さがみられる。自ら社会に対応できる生徒を育てていくために、生徒の意識を改善していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じたきめの細かい指導の充実を図る。 健康教育の推進 学校行事やクラブ活動への参加を促す。 進路に関する情報提供を充実させ、進路意識や勤労観を高め、将来への希望や夢を育む。 社会とつながる学習の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> SC、SSWを活用し、外部機関と連携し、教育相談やケース会議等を充実させ、生徒の学習を支援する。 保健だよりによる啓発を推進する。 体育祭や文化祭等の学校行事や特別活動を充実させる。 早期から進路について考える機会を設ける。進学希望者には情報提供の機会を増やし、就職希望者には就職指導員と連携し、個々の生徒に応じた指導を行う。 スクーリングや各種の学校行事を通じ、基本的生活習慣の確立を図ると同時に社会性を養い、生涯にわたって自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談、ケース会議の開催状況。生徒の回復状況 出身中学校、前籍校との連携 特別支援教育等の研修 健康診断の受診状況 学校行事への参加率 特別活動への参加率 進路だよりの発行、進路説明会の開催状況 生徒の進路希望の把握状況。就職指導員との連携 面接、履歴書指導の充実 企業訪問の実施 落ち着いた学校生活を送ることができているか 学校行事への参加率 クラブ登録者数 	A	<ul style="list-style-type: none"> SCとSSWの連携を深め情報交換やケース会議の機会を増やした。 前籍校や中学校との情報交換の導入に努めた。 保健だよりを毎月発行し健康保持の啓発に努めた。 進路だよりを毎月発行。就職指導員との連携により今年度も9月に内定を得た。応募前企業見学100%実施。 生徒会だよりの発行による行事の周知方法の改善や内容の構成の改善に努めた。(のべ参加者数 940名) クラブ活動参加者は横ばい状態で、部員の確保に苦勞しているクラブも出てきている。(登録者数90名) クラブ合同練習やチューリップの植え付けなど定時制課程の生徒との交流に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> SC、SSW、人権エレベーター委員会及び特別支援委員会が連携し、特別支援教育研修を取り入れながら、個々の生徒に応じた支援策の検討を行う。 できるだけ早く自分の進路を意識させることができるような進路指導の工夫や充実に努める。 学校行事やクラブ活動への参加率を高めるために、行事内容の見直しや周知方法を工夫する 保護者や関係機関との連携を深めることで、校内外での問題行動の抑制に努める。
3	通信制課程について、中学校、高等学校、家庭、地域、県民等に広くアピールをしていく必要がある。転・編入生の占める割合が大きい中、他の高校に対して、本校の学習システムについて十分に周知していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域、関係学校や機関との連携を密にし、本校についての情報を提供する。 さまざまな機会を利用して情報の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や他の高等学校に対して、必要な情報を提供する。 オープンスクール、面談月間、保護者会等を実施する。 ホームページや広報活動を充実させる。 学校評議員や地区指導員等の活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中・高等学校訪問や事前説明会、校報等の発送 各行事の参加者数 ホームページ更新回数 情報提供回数 学校評議員会の開催 地区指導者との情報交換 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学生、転・編入生用Q&Aを作成し、学習形態などの周知に努めた。 校報を毎月、中・高等学校に送付。HPを毎月更新。 オープンスクール参加者41名(8名増) 保護者面談月間参加者24名(9名増) 保護者と語る会参加者9名(2名増) 学校評議員会：2月16日開催 地区指導者が定期的に日曜スクーリング時に来校し生徒の相談にのっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 通信制課程の学習形態への理解を深めるため、中学校、高等学校への周知方法を改善すると共に、県民の理解を深める方策も検討する。 学習方法について家庭への連絡方法や周知方法を工夫し、保護者の理解をさらに深めていく必要がある。 外部の方々や保護者が参加する行事の周知方法について検討する。

学校関係者評価
平成29年1月31日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>学校評価アンケートではどの項目においても「良好である」との回答率は60～90%に達した。特に「他校にはない特色があるか」、「スクーリング充実」の項目で「良好である」との回答が多い。昨年度の課題となっていた「通信制課程のシステムのPR不足」についても昨年度の40%台から20%台になった。また、通信制課程では取組が難しいとされている生徒の体験活動に関する項目でも「良好である」との回答が80%となっている。</p> <p>しかし、地域との交流の面では、「わからない」や「不足である」との回答が多かった。今後は通信制課程における地域との交流や連携のあり方を考えていく必要があると思われる。</p> <p>頂いた意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先生方が生徒に優しく親切である。子どもも頑張ってる気が起こるのだと思う。 ○8月転入生に対する学習の進め方を生徒と保護者にもっとしっかりと指導してほしい。 ○色々な事情を抱え、年齢もさまざまな方が楽しく学習できる学校は素敵だと思う。 ○学校に通う楽しそうな姿を見れば、うまいくいつているんだなと喜ばしく思う。 ○校報を読む限りでは本当に明るく前向きに充実した学校生活を送っていると思う。教室の様子を見ることができないので「わからない」の回答が増えた。 ○学習の進んでいない子どもにもこまめに励ましの手紙をくれるのでありがたい。 ○レポートの解答欄や添削文字の工夫などを行ってほしい。 ○通信制高校に対して一般県民の認識がまだまだ不十分でないかと思う。正しく認識してもらえるような啓発活動が重要だと思う。